

平成30年3月29日

平成30年

第1回西胆振行政事務組合議会定例会

消防行政執行方針

平成30年 第1回 西胆振行政事務組合議会 定例会 の開会にあたり、消防行政に対する所信について申し上げます。

昨年の西胆振は、4月の暴風雨、9月の台風、そしてこの3月の爆弾低気圧による暴風雪と自然災害が連続し、伊達市をはじめ管内でも大きな被害が発生しました。

特に、3月1日から2日にかけての暴風雪では、伊達市を中心に、暴風による交通事故、建物の損壊や冠水の通報が相次ぎ、大滝区では国道276号の複数箇所では数百台の車両が立ち往生し、さらに南黄金町での除雪作業員の行方不明、大滝区と壮瞥町の一部での停電など、複合的な災害が同時に発生する事態となりましたが、迅速・的確な対応により、人的被害は交通事故による軽傷者 3名にとどまりました。

このように、住民の生活を脅かす災害が継続的に発生し、消防への期待が益々高まる中、消防の基本理念である住民の安全と安心の確保は、構成市町の基本的な責務であるとともに、地域が成長するための基盤でもあることから、今後とも消防防災体制の充実強化に努めてまいります。

さて、昨年の西胆振管内における災害状況は、火災発生件数が 31件 で、前年より 3件 の減、損害額は 7,008万3千円 で、前年より 8,509万8千円 の減となりましたが、残念なことに焼死者 2名、負傷者 1名が発生してしまいました。

今後、より一層の火災予防啓発を図り、焼死者事故の未然防止に務めるとともに、防火対策の向上を進めてまいります。

次に、救急について、昨年の出動件数は 2,387件 で、前年より 45件 の減となりました。

近年は、疾病構造の多様化や急速な高齢化が進む中、救急活動はより専門的な知識と高度な技術が求められています。

このことから、救急救命士をはじめとする隊員の資質向上のため、実務研修の充実や救急資器材の整備を図るとともに、医療機関との連携を強化し、救急業務の円滑な遂行と一層の高度化を推進してまいります。

また、救助出動は 32件 で、前年より 8件 の増となっており、複雑多様な救助事故が発生していることから、隊員の高度な技術の習得と、様々な救助事案を想定した訓練を重ねながら、即応体制の充実を図ってまいります。

次に、平成30年度 西胆振行政事務組合予算 の概要について申し上げます。

社会構造が大きく変化し、経済情勢も先行き不透明な状況が続く中、地方自治体を取り巻く環境は依然として厳しいものがあります。

当組合としても、こうした厳しい財政状況を充分認識して
予算編成にあたり、平成30年度一般会計予算の総額を、前年度より 5.73%減 の 14億5,328万5千円 としたところであります。

消防を取り巻く環境が日々変化し、その任務も拡大の一途を辿る中、地域住民の安心と安全を守る消防機関として、これからの時代の多様な要請に応えられるよう、長期的な視野に立ちながら、これまで以上に社会情勢を的確に把握し、将来を見据えた消防行政を展開してまいります。

これを実現するために、組合を構成する4市町の合意のもと、本年3月をもって定年退職となる消防長、佐藤徹也氏 を4月から現職のまま消防長として再任用し、西胆振消防のさらなる改革と発展に、引き続きその手腕を振るっていただくこととなりました。

議員各位、並びに住民の皆様には、今後とも一層の御支援と御協力をお願い申し上げ「消防行政執行方針」といたします。